

平成30年度 第3回 千代田区都市計画審議会 都市計画マスタープラン改定検討部会議事録

1. 開催年月日

平成30年11月21日(水) 午前9時59分～午後0時03分  
千代田会館10階 研修室

2. 出席状況

委員定数10名中 出席8名

出席委員 <学識経験者>

【部会長】池 邊 このみ	千葉大学 教授
【副部会長】小澤 一郎	(公財)都市づくりパブリックデザインセンター顧問
伊藤 香織	東京理科大学 教授
中村 英夫	日本大学 教授
中村 政人	東京藝術大学 教授
橋本 美芽	首都大学東京大学院 准教授
三友 奈々	日本大学 助教
村上 公哉	芝浦工業大学 教授

【欠席委員】福井 恒明	法政大学 教授
村木 美貴	千葉大学 教授

関係部署

保科 彰吾	環境まちづくり部長
大森 幹夫	まちづくり担当部長
佐藤 尚久	環境まちづくり部参事環境まちづくり総務課長事務取扱
夏目 久義	環境まちづくり部環境政策課長
笛木 哲也	環境まちづくり部特命担当課長
平岡 宏行	環境まちづくり部住宅課長
佐藤 武男	環境まちづくり部地域まちづくり課長
三本 英人	環境まちづくり部麴町地域まちづくり担当課長
神原 佳弘	環境まちづくり部神田地域まちづくり担当課長

庶務

印出井 一美	環境まちづくり部景観・都市計画課長
--------	-------------------

3. 傍聴者

5名

#### 4. 議事の内容

##### 議題

- (1) 都計審・部会における主な論点・意見概要一覧について
- (2) (仮称) 千代田都市づくり白書案について
- (3) 都市計画マスタープランの改定に向けて優先的に検討する事項について

##### 《配布資料》

次第、席次表、千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会委員名簿

資料－1 都計審・部会における主な論点・意見概要一覧

資料－2 (仮称) 千代田都市づくり白書案

資料－3 都市計画マスタープランの改定に向けて優先的に検討する事項

##### 《参考資料》

参考資料－1 千代田区都市計画審議会諮問文 (写)

参考資料－2 第2回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会議事録・議事概要

参考資料－3 平成30年度第2回都市計画審議会議事概要

参考資料－4 千代田区都市計画マスタープラン改定スケジュール

#### 5. 発言記録

##### 【印出井景観・都市計画課長】

それでは、皆様おそろいになりましたので、間もなく定刻を迎えますので、始めさせていただきますと思います。

本日は、大変お忙しい中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。3回目になります千代田区都市計画審議会の都市計画マスタープラン改定検討部会ということで開催をしたいと思います。

引き続き、事務局、景観・都市計画課長の印出井ですけれども、よろしくお願いを申し上げます。

進行のほうにつきましては、部会長の池邊部会長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いをいたします。

##### 【池邊部会長 (以下、部会長)】

それでは、改めまして、おはようございます。

3回目ということで、この報告書もだんだん分厚くなってきてまして、今日辺り、議論を少し集約していきたいかなと思っております。

本日の議題は三つでございます。一つ目は、都計審・部会における主な論点・意見概要一覧について。二つ目が、千代田区都市づくり白書案について。三つ目が、都市計画マスタープランの改定に向けて優先的に検討する事項についてということでございます。

それでは、次第に沿って案件の調査・検討に入ります。

本日、傍聴者はいらっしゃいますか。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。5名いらっしゃいます。

【部会長】

はい。わかりました。

【印出井景観・都市計画課長】

皆さん、こういった改定に関心があるという方でございますので、傍聴を認めるということで、よろしいでしょうか。

【部会長】

皆さん、よろしいでしょうか。

※異議なし

【部会長】

はい。

【印出井景観・都市計画課長】

それでは、今、入っていただきますので、お待ちいただけますでしょうか。

※傍聴者入室

【部会長】

それでは、傍聴の皆様、おはようございます。

本検討部会では傍聴者の発言は認めておりませんので、ご了承ください。なお、本日の会議、12時までになっておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、事務局より配付資料の確認をお願いします。

【印出井景観・都市計画課長】

それでは、座ったままで確認をさせていただきたいと思います。

本日、配付資料につきましては、ダブルクリップでとめてございますけれども、次第がございまして、座席表がございまして、それから、委員の名簿という形になっております。

その後、資料番号を付してあるものとして、資料1、これまでの都計審・部会における主な論点の一覧表。

資料2として、冊子になってございますけれども、千代田区都市づくり白書、2冊の冊子に分かれております。ちよだのまち編と、基礎データ編ということでございます。それから、資料3といたしまして、A4の1枚紙で、これまで、白書の中身、成果検証とか、現状についてご意見を中心にいただいたのですけれども、その関連で、今後の改定のテーマというご意見も頂戴しましたので、これは今の段階でのまとめという資料を1枚、つくってございます。

それから、以下、参考資料ということで、会議のたびに振り返るということで、区長からの諮問、都計審への諮問事項。そして、こちらの検討につきましては、都計審と部会とパラレルに進んでいるということがございますので、都計審の議事概要なり、前回の部会の議事概要という形でお配りしております。そして、さらに、参考資料4として、A3の横になっておりますけれども、改定のスケジュールということで、今、現状としては、検討フェーズということで、一番最初の、一番上の、大きな矢印の中で、2018年度、平成30年度第三四半期が終わりつつあるという状況になってございます。この辺のスケジュール感の少し見直し等については、後ほど、また少しご報告させていただきたいと思いますが、これまでお配りしているものの確認ということでございます。

以上でございます。

#### 【部会長】

ありがとうございます。それでは、早速に議事のほうに入りたいと思います。

(1)と(2)を続けて、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

まず初めに、これまで部会と都計審で出た主な論点、意見、概要一覧ということで、資料1でおまとめをしております。それで、前回以降追加になったものとしては、右側の会と書いてあるもののうち、本部会の第2回の論点と、あと、先般行われた第2回の都計審の論点ということかと思っております。ですので、第2回の部会の論点、ご意見を中心に補足して説明をさせていただきます。

このさまざまなご意見については、幾つかのカテゴリーに分けて整理をしています。主な論点として、現行の成果検証、我々のほうで、事務局で提案はしてきたところですが、それに追加する必要がある、そういったものについての視点。それから、先ほど申し上げたとおり、それだけではなくて、今後のまちづくりのテーマについてのご意見もいただいておりますので、それは②と③にとりまして、両方に関係しながらも、やはり戦略的、優先的に取り組むようなご意見。④としてその他ということで、カテゴリー分けをしております。

第2回の部会で出されましたご意見ですが、具体的内容については、本日お配りした議事録等でご確認をいただければと思うのですが、黄色の中の右側が第2回部会となっているところで、①の1番は、村上委員の、地域エネルギーシステムの表現ということで、これは具体には、千代田区におけるコジェネの状況の把握ということで我々のほうで理解をしまして、今、日本コジェネ協会等を通じて、千代田区における普及の状況ということで調査をしております。なかなか個別、例えば、場所、データでプロットするということについては難しいという状況でございますけれども、データをいただけるということで、引き続き調査

しています。

その次が、中村英夫委員のほうから、建物の個別のデータの話で、なかなか個別に築65年以上とかと表現するのは難しいよねというお話がございました。その際に、我々のほうでも、サンプルとして内神田を出しているのだけれども、もう少し幅広く、極端に言うと全域で建物データを把握したいという中で、さまざま、例えば都の主税局のデータが使えずに困っていますよというお話を申しあげましたけれども、その後、結局、千代田区における建物登記データを全て電子データでとることにしまして、既に隣の法務局に申請して1カ月たっているんですけども、まだ来ておりません。ということで、先ほどスケジュール感とお話し申しあげましたが、その辺りのデータの把握の影響で、少し、最終的に白書がドラフトから案になるのが遅れる可能性がありますよということでございます。

それから、伊藤委員、前回欠席だったので、私のほうの聞き取りの中で、こういったデータが、いわゆる千代田区版の都市計画基礎調査として、さまざまな人が活用できるようにというご意見を、何点かにわたっていただいております。そういう方向で、最終的にまとめるときに、こういった紙でパブリッシュするのではなくて、出し方については、今後検討してまいりたいと思っています。

それから、中村英夫委員のほうからは、やはり戦略性のところとも関係があるのでですけども、今後、課題解決に向けて、誘導内容や開発における貢献を求める内容が必要だということで、そういう方針で編集をしてみたいということでございます。

それから、伊藤委員の何件かについてはまとめて報告しましたが、小澤副部会長と池邊部会長のほうからは、個々の、例えば神保町とか、江戸城という視点はあれだけのだけれども、個々のエリアの成り立ちも含めたレイヤー感を、もう少し説明する必要があるのではないかとのご指摘をいただいたのかなと思います。

中村政人委員のほうからは、やはりなかなか単純なアウトプット指標にとどまらない、まちの成り立ちとか、人のなりわい、思いとか、そういった広い意味での文化、身体的文化というお話もありましたけれども、その辺りの表現ということでいただいております。

それから、橋本委員のほうからは、橋本委員は前回ご欠席だったのでですけども、聞き取りの中で、やはりどうしてもハード、まちづくりの中で言うと、例えば車椅子をお使いの方に重点を置いた形での示し方なり、考え方になるのだけれども、障害者差別解消の動き、ユニバーサルの動きも含めて、視覚・聴覚障害者への対応等についても念頭に置く必要があるのではないかとのご意見をいただいているところでございます。

それから、下から2行目について、三友委員のほうからは、区民を基本としながら、さまざまな、ある意味、区民概念が非常に多様だというご指摘があって、いろいろな人からも愛される場所の創出ということで、この辺りは、後ほどご説明する論点の中に反映していこうかなと思っております。

それから、福井委員のほうからは、歴史的な空間や建造物の保存・活用ということで、この辺も後ほど白書の中で、単に景観まちづくり重要物件にとどまらない形での見せ方をしているということです。

それから、次のページ、裏面にまいりまして、中村政人委員のほうからは、やはり社会関係資本としてのコミュニティとか組織という意味合いが、ご指摘があったので、その辺りは、後ほどの白書の中に記載をしてきているということでございます。

池邊部会長のほうからは、大学との連携とか就業者との連携というご指摘もありましたので、後ほど白書の中に反映をさせていただいております。

それから、小澤副部会長のほうからは、地区レベルでの交通のあり方、その次の項目とも重なりますけれども、駐車場における現況の課題や先進事例の研究ということで、この辺は、少しデータ編の中に入れながら、課題として認識しつつ、この都市マスの中で最終的に整理し切れない部分については、部門別計画、駐車場整理計画等の改定に向けた頭出しということで、うまく整理できないかなということ考えております。

観光まちづくりという視点については、今のところ、そういった幅広では飲み込んでいないのですが、一つ、来街者インパクトの視点ということについては、白書の中にお示しをしているということでございます。

伊藤委員のほうから、こういった白書の取組というのは、やはり継続的に行いながら、計画のマネジメントもという話がありましたけれども、これと関連して前回、都計審の親会の議論の中で、都市計画基礎調査というのは、5年に1回なりなんなり、都道府県レベルでしているのだけれども、市区町村レベルにおいては、行政内部的なまとめ方というのはさまざまあったり、あるいは、こういった委員に出す、委員会に出す資料としてはあるんだけど、外向きに見ることを想定したというのはないので、そういった視点からという指摘もありましたので、それもあわせて、今後、白書として取りまとめて追記していきたいと思っております。

それから、中村政人委員のほうから、特徴的なイメージを形成する街区の継承、それについては、論点として、神田らしさとか、麴町らしさとか、一つ、どういう形だと言えないものらしさを継承するのは、今後どうしていくかということで、一つ論点として整理をしてきたかなと思っております。

一応、前回追加されたご意見についてはそういう状況でございまして、引き続き白書のほうの説明をさせていただきたいと思うのですが、こちらのほうは資料2で、まち編とデータ編という形で分かれてございます。

それで、最初から大変、言い訳するようで恐縮なのですが、少しまだドラフトということになっておりまして、精力的にデータを集めたりしているところなのですが、なかなか、本来はこういう会議でお出しできるレベルまでなっていない部分もあるという状況だということでご理解をいただければと思っております。

ただ、この個々の資料の中身については、これまで、少し複眼的に成果検証とか、まちの現況とか、まちづくりの経緯とか、幾つかの資料に分かれてお示しをしたものを、ストーリー立てて整理をしながら、一方で、アウトプット指標といったものについてはデータ編に入れるとか、淡々としたまちの現況についてはデータ編として分けるとか、という形に編集をしております。

やはりデータ編のほうが、なかなかこれは一回、さまざま深みにはまるというか、データをいろいろ考えていくと、関連するデータというのも気になったりして、結構膨大になってきております。要は、データ編とまち編の関係性というのを、もっとしっかり結びつけなければいけないと思っております、そういう作業ができていないというところがございますので、この辺は、冒頭申し上げておきたいと思っております。

それから、まち編のほうについては、割と、少しポジティブにまとめています。千代田区の魅力とか、ポテンシャルとかまとめています。そこに、それがひとりよがりにならないように、少し、この部会の先生方なり、都計審の学識の先生方なり、少しポテンシャルと期待と課題感ということで、コメント、コラム的

なコメントをいただきながら、課題感も含めて出していきたいと思うのですけれども、今日、なかなかそこまで着地をしていないという状況でございます。

冒頭、すみません、長々と言い訳をしましたがけれども、そういう状況だにご認識をいただきながら、まち編のほうの構成についての説明をさせていただきます。

まち編のほう1枚おめくりいただきますと、右側に目次がございます。このA4横のカラーです。目次がございます。この目次に入る前に、3枚ほど、「はじめに」に当たるようなものが冒頭ございます。まず一つは、「ちよだ」の都市・まちの系譜といま、そしてこれからというページは、白書をつくる意義ということで、通常、こういったまとめは、都市マスをつくる時に、都市マスの前半戦の中にこういう内容が盛り込まれて、一緒にパブコメで出されるという形なのですけれども、そこを先にまとめて切り出していくと。この素材を出して、それから、こういった学識の先生、区民、議会、都計審、さまざま議論をしていきましょうよというたてつけにしているということでございます。都市マスの本論と一体にパブコメに付すのではなくて、こういうものを先に出すというところでございます。

それから、おめくりいただいて2ページ目に航空写真がありますけれども、千代田区がほかの一般の自治体と何が違うのかといったときに、さまざまあるのですけれども、要は、皇居、国会、最高裁判所、あるいは大丸有、ここはスペックで確かに港区とか中央区とか、都市のスペックで千代田区と同様の都心部はあるんだろうと思うのですけれども、ここのとこが大きく違うのだろうと。ある主、ここには、まちづくり的にも、なかなか手が出せないという語弊がありますけれども、3割にわたるこの地域を除いた残りの7割の中で、国、東京都、区が連携しながらまちづくりを進めていくと。その辺りの確認をこの航空写真をもってしているということでございます。

それから、もう一枚、これは以前に出させていただいた資料なのですけれども、そういった場所的な特殊性、象徴性ももちろんあるのですけれども、区民概念も非常に多様ですよ。これは、部会の先生方からもご意見をいただいているのですけれども、一番下の、いわゆる夜間人口、定住人口6万人、これは我々自治体としては基本だけれども、まちづくりとしては、6万人だけを考えればいいという話ではないのだろうなということなのだろうな、それが一つあり、もう一つは、そこで会社があり、大学がありという、いわゆる働き学ぶ人、それも基本なのだろうな、上になるのですけれども、それは80万人。

もう一つ、千代田区は、いわゆる、さまざまな交通交流の結節点として、滞在するとか、例えば、たまたまそこで乗りかえるとか、そういった人たちが単純に、例えば、鉄道の乗車人員でいえば300万人いると。そこが非常に、区民概念が多様なのだよというのが特徴だよというのを「はじめに」でまとめております。

それから、もう一枚おめくりをいただいて、SDGs。これについては、やはり今後、都市づくり、都市計画だけではないということなのですけれども、都市計画の中でも、SDGsを意識して進めなければいけない時代環境になってきているのだろうなと思います。これは、多分、この10年、20年、ある程度、安定的に一つの大きな流れとして踏まえる必要があるのだろうと。今、いろいろところでSDGsを聞いて、一時のはやりなのかということではなくて、これはかなり骨太の世界的な潮流なのだろうという理解の中で、少し参考としてお出しをしております。

お戻りいただいて、目次の内容に沿ってどんなストーリーなのかということをご説明申し上げますと、通常、こういった自治体の都市マスの振り返りのところでは、最初に歴史が来るんですけれども、そうではな

くて、最初に千代田区の特性を整理しました。国際都市であり、世界の中でも5本の指にあるような都市であり、首都の東京の中心の千代田区というところの立ち位置、ポジショニングを確認すると。

1. 1では、そういった首都東京を牽引する千代田区ということと、あと、この20年、千代田区が都市再生の中で変貌してきたという経緯、それと、もう一つは、ただ単に個々の拠点、拠点としてのスペックが高いのではなくて、歴史によって積み重ねてきた多様な拠点が集まっていますよという話。

1. 4では、その中に、都心居住で住まう人はいるのですという少し大きなグローバルのところから、ローカルな都心居住にという流れになっております。

そこから、次に歴史から始まっていくというところでございます。

歴史の次に、魅力と課題は裏腹でございますけれども、千代田区の魅力価値ということで、7項目に分けて少し束ねています。これは従来の都市計画マスタープランの、例えば交通だとか、あるいは福祉のまちづくりだとか、環境だ、防災だという束ね方ではなくて、もう少し横断的な形でまとめたものでございます。

4番としては、そういった魅力とか課題を踏まえて、優先的に課題を解決し、魅力を増幅していく必要があるエリアはどこなのだろうという観点で書いております。一応、全体像としてはそういう形でご確認いただいて、あとは、ぱらぱらと確認をするような形になるかなと思います。

最初の1. 1については、冒頭は、首都東京の中で、千代田区のポジショニングというところになっていきます。これについては、先ほど有職者のご見解ということで、多分、場所的には都計審の会長にお願いするような形でコメントをいただけるかなと思います。

それから、次の4ページ、1. 2ですけれども、今、さまざま、例えば大手町の連鎖型の開発とかありますけれども、ちょうど平成14年以前、20年ぐらい前の状況のまま、もし都心が推移していたらどうなるのかなとかと、当然、いい意味でも、悪い意味でも、さまざまな評価はあるのですけれども、平成14年以降の都市再生の動きの中で、今、都市機能、千代田区だけではございませんけれども、都市機能、首都機能をお互いに相補完しながら担ってきているという動向です。

1. 3は、先ほど申し上げました。ただ単に駅のターミナルがあって、人が集まるスペックがあるまちが集まっているのではなくて、歴史的な沿革を踏まえた成り立ちのあるまち、個性的なまち、それこそ皇居がありながら、秋葉原のような場所もある、丸の内もあると。非常にバラエティーが飛んでいるのではないかなというまちでございます。スペックではなくて、ストーリーで積み重ねられてきた拠点がありますよということなんです。

それから、1. 4で、その中でも、都心居住をしている人が多く増えてきていますよというところがございます。ただ、この中で課題は、さまざま地域資源、歴史資源、文化資源、皇居を中心とした自然があるのだけれども、我々としては、そういうのがあるから都心居住が進んでいるのですよと言いたいところなのですけれども、現実アンケートをとると、交通が便利だからというところ、あるいは、それこそ子育てというところがあって、そういう意味で言うと、都心のそういう、本来的な魅力を楽しんで、都心に対する、千代田区に対する愛着が醸成しているのかどうかというのは課題なのかなと思っております。この辺りは、例えば、伊藤先生に少しコメントをお願いするイメージでおります。

それから、第1章を少し写真でスライド的にまとめたコラムがあって、その次に歴史の振り返りということになります。



歴史の振り返りが12ページで、江戸期のまちの始まりということで、これは都計審のほうでも、まちの成り立ちもそうなのですけれども、要は、千代田区は坂が多いよねといったお話がありましたので、あわせて、まちの成り立ち、地形とあわせて、そういったことを確認しているところになります。

次に、14ページが、これは前にもご説明をしました。千代田区の都市基盤がほぼ整備されているのは、震災復興、関東大震災における復興で、ほぼほぼ今の都市基盤がされてきましたということと、あとは、15ページにもございますように、バブル経済が過熱する中で、短期的に、非常に収益性の高い業務地化が急速に特化して、人口が3万9,000人になってきたというところで、ある意味、もう、なりふり構わず定住人口の確保ということに取り組みながら、都市再生が進んできて、今、人口6万人になっていますよ。そんな中で、新たに低炭素ですとか、エリアマネジメントですとか、新しい課題が出てきますという流れになっています。

それから、16、17なのですけれども、これは先ほどの拠点と似ている分け方なのですが、景観とか境界性ということでまとめています。だから、ちょっとかぶり感はあるのですけれども、景観の観点、特色はある街並み、まちは、もう関東大震災以降、何代も変遷はしているのだけれども、残っている境界というのがありますよねということで、このところのコメントは、景観審の西村会長にお願いしようかなと思っています。

それから、18、19は、これも先般、資料でご説明しましたが、千代田区が都市づくりに取り組んできたさまざまな方針ですとか、エポックになる出来事、国の制度の改正・変遷、それと、人口動向をあわせてお示しをしたものでございます。

それから、その次のページについては、少し定住人口の回復の取組みについてまとめたものになっています。地区計画、住宅付置、それから市街地再開発という手法を使いながら、住機能を確保してきたというのをまとめています。

次のページからが、課題と魅力は裏腹だということを申し上げたのですけれども、魅力のアプローチから少しポジティブに書いております。22ページが、歴史が育んだ風格・文化と先端性が調和する都心というところで、この辺りについては、やはりまちの機能だけではなくて、雰囲気、文化、息遣いみたいな、なかなか、少し定性的な話になってくるのですけれども、こういったものが守られてきていますよということで書いてはいるのですが、その辺りについては、多分課題感があるのだろうと思うので、中村政人委員に、3.1なり文化の部分で、別のところでも、課題感を示唆するコメントをいただければなと思っています。

それから、次が、24、25が、やはり最近、特に、東京における、都市における緑ということの役割が注目されています。ご案内のとおり、東京都全体の中の緑は減少傾向なのですけれども、23区の区部では緑が増えているという状況がございます。都市の中の緑の役割が非常に大きくなっているという中で、福井先生からのご指摘であったのですけれども、25ページのように、拠点拠点の緑は増えているけれども、その連担とか、連携とかがないよねということもございますし、グラウンドレベルが限られている中で、どういうふうに緑を創出していくかということで、新たな取組制度がありますので、この辺りについては池邊部会長にコメントをお願いさせていただきたいなと思います。あと、場所等の関係ですけれども、福井部会員にも、水辺の関係でコメントをお願いしようかなとも思っています。

27ページが、いわゆる住まい方とか、働き方とかというところの少し変遷というものをまとめているところであります。これについては、都市マスの改定の中で、今年度、個別のアンケート調査などをしていません。右側についてはその結果なのですけれども、普通に世論調査でやるのと同じ調査をやってもあまり意味がないので、今回のサンプルは、千代田区に住んでから2年以上10年未満、住み始めた人たちに聞いているというところでございます。そうすると、やはり我々が本来思っている、千代田区に愛着を持ってもらって、ここの豊かな自然とか、文化とか、格好いいことを言っているところとは、かなり離れている中で、こういう人たちをどう、都心居住の中でコミュニティをつくってもらうかというのが課題かなというのが見えてくるのかなとも思っています。

そんな中で、27ページにありますけれども、官と民との空間のいい形での融合ですとか、住まいと働く場所以外の居場所、さまざまな交流の空間、活動の空間の創出というところが、少し可能性としてあるのかなと思っています。この辺りについては、プレイスメイキングとかも含めて三友委員のほうにお願いしたいと思っていますし、あと、別件で、今後の動向の中で、シェアエコノミーの話とまちづくりというのもございますので、その辺についても、日本シェアリングエコノミー協会の事務局長のほうからインタビューしておりますので、どこかにプロットができないかなと思っています。

それから、次が、28、29が、多様で高度な都心の移動ネットワークということで、我々の中で少し、福祉のまちづくりとかユニバーサルとかというの、どこに重点を置いて考えるかということで、当然住まいとか、その周辺とかという部分については、千代田区に限らず、さまざまな形でバリアフリー化、ユニバーサル化が進められてくるのだろうなと思っています。

そうすると、千代田区が、やはり今後、力を入れて進めるのは、そういった、少しハンディキャップがある人とか、加齢が進んできた人たちが、より活動し交流しやすい環境をつくるのが、千代田区の主たる役割なのかなということで、都心の移動ネットワークというところでお示しをしております。けれども、なかなか現在では、そこまで、例えば地下鉄の駅にしても少し、バリアフリールートをとにかく確保するとかということになっていて、駅まち一体開発というか、なかなか進んでいないということもございますので、この辺りの課題感については、橋本先生にお願いできればなと思っています。

次が、環境・エネルギー基盤が支えるスマートな都心ということで、実は、3.5と3.6というのを一まとめにしていたのですけれども、やはり少しボリューム感として、環境・エネルギーと防災が連携、深い関わりがあるよというのは、それは我々も承知はしているのですけれども、少しボリューム感として厳しいなという話と、前回、地域エネルギーデザインを中心として、トップランナーとして取り組んでいるということをもっと示すべきだというご指摘もいただいたので、少しこちらのほうに、集積している都心における未利用・再利用エネルギーの促進ということを、千代田区としても研究しているのだよということについて、お示しをしたところでございます。この辺りについては、村木部会員か、村上部会員か、お願いをしたいなと。

もう一つ、お二方共通しているのは、エネルギーマネジメントの話と、データに基づいたプランニング、データに基づいた今後の課題に対する対応の仕方、仮説の立て方、仮説の検証ということが、お二方ともなので、その辺、役割分担、どちらにというのは調整させていただきたいかなと思いますけれども、そういったイメージであります。

その次に、32、33が、都市型の大規模災害にそなえた都心の対応力ということで、引き続き首都直下をイメージした地震に対する対応、それから、内水・外水の被害。被害についても、千代田区の中で命に関わるというのは、地下部、地下街ではないですね、地下通路といったところなので、その辺りについての現行における大丸有地域の対策のイメージをお示ししております。

もう一つ、首都直下については、事前復興、復興事前準備というところが、前に申し上げましたとおり、新たに都市計画運用指針の中でも、都市計画マスタープランに書き込むようにと。そのようにと言われる前からいろいろ検討はしているのですが、この辺は、事前をお願いをしていなかった小澤副会長に少しコメントをお願いできればなとは思っております。この辺りが非常に難しく、総合危険度からいうと千代田区は23区の中では安全だよ、みたいなのところなのですけれども、本当にそうなのだろうか。

それから、もう一つは、千代田区は、もうとにかく迅速に復旧・復興しなければいけない責務が期待されていると。それが、大丸有だけがそうなのかという話ではないのだろうかという中で、その周辺、神田とか麹町についても、都市機能の迅速な復旧というのが求められるとすれば、周辺地域においても復興事前準備と、まちづくりというのは重要なのではないかなという考え方でございます。

それから、最後、3.7が、地域のまちづくりの担い手の話ですとか、あるいは、エリアマネジメントの話というところでございます。この辺については、千代田区におけるまちづくり協議会というのを、本来はもう少し深く分析する必要があるだろうなと思っております。その辺、ちょっとのどにとげが刺さっている感じがするのですけれども、いわゆる、ある程度広域的に幅広く、まちの将来図を考える協議会というものが面的に広がっているかという、そうでもないのです。ある種、プロジェクト対応とか、あるいは道路整備の対応だとかというところが多くなっておりますので、その辺りも、もしかしたら今後の課題なのかなと思っております。

それから、エリアマネジメントについても、大丸有のようなところでは、ある程度、そうはいつでも厳しいよという話は聞きますけれども、既成市街地におけるエリアマネジメントが、持続可能なのかどうかというの、結構課題かと思っております。この辺は、都計審の保井先生にコメントをお願いしようかなと思っております。少しコラムとして、ターニングポイントをまとめてみますけれども、事務局先行型の部分があると思うので、この辺はご議論をいただければなと思っております。

それから、次が、今申し上げたように、期待感とか課題感とかがあっても、それを場所的には、どう優先的に取り組んでいったらいいのというところで、まず初めに、千代田の都市構造の振り返りということで4.1、38、39で現状の集積の状況なり、都市軸の状況についてお示しをしております。

それから、その次が、神田エリアということで、前回もお示しをしましたがけれども、神田エリアにおける、もちろんポテンシャル、魅力もあるのですけれども、一方で、敷地が小さい中で、建物の老朽化がモザイク状に進んでいるという状況をお示ししております。この辺りの優先的に取り組む課題が、いわゆる輻輳しているということも含めて、中村英夫委員に、この辺についてはコメントをいただければいいのかなと思っております。多分、今後の市街地像、防災の観点だとか、先ほど申し上げた駐車場、車の観点だとか、いわゆる、街区の中に、人優先の先導的なものを一本通すだとか、さまざまな期待と可能性と課題があるのかなと思っております。

番町・麹町エリアというところで、こちらのほうは現状をお示しながら、人口増の動向、一方で高経年

のマンションが集積しているというところを整理しております。この辺は、もう一段、データも含めて整理する必要があるかなと思います。

それから、次に、飯田橋・富士見エリアというところで、ここについても、いわゆる飯田橋は神田なのか、麴町なのかと。区で言えば麴町区なのですが、まちづくりの中では、ある意味、商業と住宅が融合する、学校も多くあつたりするのですけれども、そういう地域の中で、飯田橋駅周辺を中心に、さまざまな動きがあるということを念頭に、これまでの経緯を振り返って、ここにあっても、一つ東京都の中で議論されているさまざまな人の交流の結節点という位置づけもございますので、こういった形で地域として頭出しをしたということになっています。

そして、別に都市づくり白書のデータ編ということで、おめくりをいただいて、これは中身を説明していると、また議論の時間がなくなってしまいますので、大ぐりに目次のところにございますように、ひととということで、千代田区の特性、住んでいる人、勤めている人・学んでいる人、滞在・交流している人に関するデータ。

それから、社会基盤ということで、道路、公園・緑地・空地という話。

それから、地域資源ということで、文化財・史跡・歴史的建造物。商店街とありますけれども、いわゆる産業、商店街を含めた産業についてまとめているのですけれども、この辺が少し、だんだん神田が広がってきてしまっているので、今、調整をしているところでございます。

それから、4番、都市づくりの取り組みというのは、これまで資料をお出ししてきました、今の都市マスの体系に沿って、こんなふうになってきました。住宅が増えてきました。道路を整備してきました。水と緑であれば、緑道を増やしましたというのを改めてまとめたものになっていますので、中身としてはもう、今までご覧いただいている中身かなと思います。

それから、5番の千代田区の現状・動向についても、前回まで千代田区の現況ということで資料をお出したものをコンパクトにしたものでございます。千代田区の土地利用・建物利用の状況についての概要をお示ししております。

6番なのですけれども、本日、66ページをご覧いただければと思うのですけれども、これが番町地域のサンプルになっていますが、今後、少し課題横断的な、いわゆる全体構造の話の次に、地域別のまちづくりについてご議論いただくことになってくるのですけれども、そこに向けた地域別カルテということについて少しまとめてみたのですけれども、申し訳ございません、間に合わず、今、こういう若干すかすかな形でお出しをしているので、地域別の議論をするときに、これで必要十分なのかということについてのご意見も、いただければなというふうに思っております。こういう形で少し整理をしておけば、次のページの議論がしやすくなるというところです。

多分、ほかの自治体でも、この辺を全部しつらえてから、こういう部会、委員会を開くのですけれども、ある種、その前段からコミットしてもらっているということになりますので、例えば、地域別まちづくりのこういった資料についても、こういう視点があるのではないかというご指摘あれば、頂戴したいと思います。

すみません。長くなりましたけれども、議題の(1)と(2)については、以上でございます。

【部会長】

ありがとうございました。

都市づくり白書については、かなり特色性も含めて、あと、前回いただいたご意見に対しする対応も含めて、いただいたかと思います。

今、ご説明ありましたように、この都市づくり白書というのは、今後の都市マスの改定に向けた出発点でもあり、また、今後、区民の方や、まちづくりのさまざまなステークホルダーの方々と意見交換をする際の重要なツールとして位置づけるということでございますので、まずは、この都市づくり白書について中心に、ご意見をいただきたいと思います。

一応、後になっていきますけれども、ご欠席の委員の方と重複があるといけないので、先にいただいた方がよろしいでしょうか。

**【印出井景観・都市計画課長】**

はい。欠席の福井委員と村木先生からは、個別にご指摘はございませんでした。ただ、いわゆるまち編の、ストーリー立てについては、こういう方向でいいのではないかというお話をいただきましたけれども、やはり、村木先生のほうからは、こういう段取りで都計審なり部会に対して、事務局側からぼんと資料を出すのではなくて、その資料もこんなものだよねと、学識の先生方が考える機会をつくるのであれば、もう少しデータの部分について精査をしながら、もう一段、今後計画をつくっている上での仮説の基礎になるデータについて、もう一段整える必要があるのではないかというご指摘はいただいておりますけれども、特に個別の課題についてのご指摘はなかったのかなと思います。

**【部会長】**

今のお話は、どちらかというと、このデータを見た上での専門家の評価みたいな部分を若干まじえてということでございますね。

**【印出井景観・都市計画課長】**

そうですね。

**【部会長】**

はい。わかりました。ありがとうございます。

それでは、皆さんから、どなたからでも結構ですけれども、ご意見をいただきたいと思います。いかがでございますでしょうか。

**【伊藤委員】**

では、全体の立て付けについて伺いたいですが。

すごく大変な、膨大な作業をされているのだと思います。今、まち編とデータ編というのがあって、この二つの関係というのがどういう関係にあるのかというのがちょっとわかりにくいのです。例えばまち編の中で示されているいろいろなものがあるのですけれども、そこにデータ編のここを参照してくださいみたいな

のが入ってくるようなイメージなのでしょうか。データ編もデータがいろいろ載ってはいるのですが、まだそれだけで、少しずつ解説みたいなのが入りつつあるのですが、何を伝えたいのかがわかりにくいように思います。データも問題意識を持って見る人にとっては、見ているいろいろ得るものがあると思うのですが、そうではないと、ただただ載っているだけになってしまうので、何を伝えるためのデータで、ここから何を読み取ればいいのかということがどこかにないと、何か読みにくいなという感じがするのですが、その辺どのような想定で進められているのでしょうか。

【印出井景観・都市計画課長】

いずれも、おっしゃるとおりで、現状できていないというか、大変申し訳ございません。

【伊藤委員】

できていないのは大丈夫なので。

【印出井景観・都市計画課長】

対応関係についても、今回は少し、参照の関係も意識して整理しようかなと思ったのですが、さまざま、先ほどの、例えばエネルギーの関係だとか、あるいは、建物データを落とし込んだ資料というところも、今後追加されるので、番号を打った対応関係が出ると、後が大変だなということで、とりあえずは、そういう形の対応関係が不明な状況になっていますので、今後そこはしっかり対応させていきたいと思います。

【伊藤委員】

では、まち編からデータ編を参照するような形で。

【印出井景観・都市計画課長】

そうです。その関係は、人の流れであれば、人口のところを見てくださというところで対応しますし。それで、ずっとストーリーの中で、それが必ずしも順番だと言っていなかったりすることもたくさんあると思いますので、その辺の対応関係を確認するしつらえにはしていきたいというのが一つ。あと、おっしゃるとおり、2番目だけ見たときに、ぽんとグラフだけあったりするので、そこについては作業が途中で終わってしまっているので、特徴的な傾向とか、ここを見るべきだということのコメントは、それぞれ追加する形で考えています。

【伊藤委員】

ありがとうございます。

では、関係してなのですが、データについていろいろなところに引っ張ってこられていて、それで、その上で最新のものでは、大分グラフも統一したビジュアライゼーションになっていて、ご苦労されているのではないかなと、きれいになりつつあるなと思いました。グラフなどの出典が書かれているのですが、千代田区ホームページとか、何とか年報とか書かれているのですが、できれば最後に、出典一覧という

か、どこを見れば何がわかるとかというのをまとめていただけると、データ編としての価値が上がってくるかなと思いました。さらに、もしPDFとかで出されるご予定があるのでしたら、リンク切れがあるかもしれないですけども、そのうちリンクもやっていただけると、見やすいというか、さらに掘っていきたいと人にとっては見やすいかなと思まいした。これは、コメントです。

**【部会長】**

ありがとうございます。

ほかにご意見ございますでしょうか。

**【三友委員】**

今の伊藤先生のお話と関連しますが、白書やデータ編は、区民の方や一般の方に向けて発信している点が重要だと思います。表やグラフを見慣れていない方に対して、ぜひご覧いただきたいということなのだと思います。あまりコメントを載せ過ぎて誘導してしまうのは宜しくないと思いますが、現状だとご説明が少なく、一番ご覧いただきたい方たちにうまく伝わらないのではないかと危惧しています。非常にご尽力されて掲載するデータかと思しますので、日頃、表やグラフに馴染みのない方達にも伝わるようにご配慮いただけたらと、重ねてお願いしたいと思います。

以上です。

**【部会長】**

ありがとうございました。

ほかにご意見ございますでしょうか。

**【中村（政）委員】**

いや、すごい情報で、読むだけでかなりエネルギーを使うんですけども。文化的なところのほうが、まず役割的に文脈化されてくるところもあるので、少しここを見て気になるところが、最初のページに、過去と現在と未来というように一応設定していますよね。なので、時間軸の流れが必ずあると。つまり、課題があるものが課題解決に向かい、最終的に課題解決した将来像に向かうという大きな流れが全体の中で、まちづくりという点であると思うのですよね。そり流れの中では、書き方は難しいとは思うのですけれども、初めて、例えば千代田区に観光で来た人が、千代田区は非常にいいところだと。こういうところだったら働いてみたいとか、または住んでみたいとか、観光だとしても何回も行ってみたいな、その次に、何度も来る間に、いや、実際にもう長期的に少し住んでみたいなと思住み始めたり、郊外にいる人が都心に移住してきたり。それで、そのうち結婚して子どもが生まれ、徐々にもっと深く千代田のことを知りたいた。そのうち町会の活動とかしながら、まちづくりに関しても、もう観光の視点ではなくて、まちの一員として物事を感じたいと。そこから、さらに、多分時間がたって、子どもが二十歳を過ぎると、もう少しまちのことをリーダー的に、こういうことにしていきたいのではないかという思います。もちろん、諸先輩がいて、当然、仕事関係の先輩としている。

ということを考えていくと、それらが一人の人間の中でも、ある時間軸をもって変化していくわけですね。その変化していける層が同時に存在するわけなので、初めて来ている人と、それが20年、30年この千代田にいる人が同時に存在しているわけですね。となると、この白書でのレイヤーの考え方が、同時に、例えば五つぐらいには分かれるとは思いますが、ある階層の中での違いをもった時間軸でまちづくりが進んでいるのだと。という、子どもの人たちに対するものもあるし、もちろんシニアの層の人たちにもあるのだけれども、もう少し、千代田をつくっていく、例えば文化なら文化をつくっていくという時間軸も含めて、その人たちの思いが発展していく、住み続けて、何かそこでの成熟感が満たしていくというストーリーがあると、この白書の意味が高まるような感じがしました。

なので、現状のことはすばらしく書いているのですが、その流れをもう一つ感じられないのですよね。アンケートの中でも、もちろん、ここでの今、住んでいるところの思いはどうかと書いているのですが、そこは非常に断片的で、どの層で、どういう位置づけの人なのかというのが見えて、まだ読み取れていないのですけれども。そこが少し、どうすればいいのでしょうかね。複雑の中でですけども。

よく、アート界でも僕は言うし、景観等でも言われますけれども、時間をかけてつくるものというのが、いわゆる成長していくので、地方の中でも移住者を増やしたりとかする際に、いろいろな策をしますよね。いろいろな作戦をもって、展覧会なり、または移住促進の企業誘致のことも含めて総合的にやっていくわけですけども、それらの階層性をはっきり打ち出して考えていかないと、漠然と、渾然一体とまちづくりとなってしまうと、やはりアクションであり、一つ一つの戦略がぼやけてしまうところがあると思うのですね。なので、明らかに観光で来る人にターゲットがあるではないですか。その観光で来る人のターゲットが、その中から、単におもしろかったね、秋葉原へ行っておもしろかったねというだけでなく、もう一歩、千代田の深いレベルのところの文化に触れるようなきっかけがどういうふうにつくれるか。それから、その深いレベルに達した人はおもしろいなと思って、今度は、マンションをこっちで買ってみようかというぐらいになるのかという、この流れをこの中で読み取れるようになると多分データは随分できている感じもするので、そこは今、一番に気になりました。なんとなくわかりますよね。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。わかります。よろしいですか。

【中村（政）委員】

はい。

【印出井景観・都市計画課長】

その辺の、今の中村政人委員がご提示いただいた一つのストーリー、ペルソナを持ったストーリー、最初に来た人が好きになっていって、ずっと住んで町会に入っていって、最終的には地域貢献するみたいなストーリーというのはすごくイメージはして、調査の切り口としても、漠然と全ての人に調査するのではなく、この10年来た人を改めて調査いたしました。そうすると、先ほど申し上げたとおり、便利だから、利便性があるからという回答が多かったと。そういう方たちが、今後どういうふうに関与の魅力を知ってい



くのかというのは大事だよねというのは、課題としてデータと連動してるのかなと思います。だけれども、例えば、入門者ガイド編から中級編になったときにどうなるかということでは、なかなか、いわゆる都市計画とか、都市施設をつくり、強いていえば、エリアマネジメントの中におけるターゲティングだとか、例えば、地区計画をつくるときのまちの将来像をどう考えるだとかということには、多分落とし込んでいけるのだろうと思うのですけれども、その辺は、今後そういうこと、白書でどこまでそういうふうに、その辺の上級者、中級者みたいなものに対する取り組み方とか、動向とかを示せるかというのは、なかなか今、お答えできないのですけれども、今後のまちづくりの進め方の論点ではあるとは思いますが。漫然と、全ての人に同じことをするのではなくて、新しく便利だけを求めてきた人に対して、千代田区に愛着を持ってもらうにはどうしたらいいかと。愛着を持っただけで、自分がよければではなくて、地域に貢献する取組をどうしたらいいかというのは考えていこうかと思えますし、一つデータとしては少ないのですけれども、地域との交流について、例えば今、地域との交流があるという人の割合は、たしか2%ぐらいだったのかな。だけれども、今後住み続けてどうですかというのは、倍ぐらいになっているのですよ。少ないのですけれども2%が、例えば今後5%とか6%になっているのです。その辺りに可能性を感じて取組を進めるとかというのがあると思うので、今後のまちづくりの進め方、ソフト面とかまちの将来像を描いていく中での一つの視点としてそういうのもあるよねと。平板に進めるのではなくて、そういう地域に対する愛着を持たせるような形で取り組んでいきたいなと思います。

#### 【中村（政）委員】

そうですね。単純に僕がいつも思っているのは、癒されるタイプが最初で、その次に経験することで一步深まり、最後は自分のものにしたいという実存的に行くという、これが一つのステップなのです。なので、癒される間には、もちろん観光でその場限りのもので、ああ今日はいいものを見たねと、いいものを食べたねと。その次にやはり、いや、食べるだけではあれだね、自分で参加してつくってみたいなという経験、体験観光になりますよね。その先にやはりもう引越すというふうに、あるステップがはっきりしているので、そこの心の流れをどうまちづくりに生かしていくのかは、ある意味、今後非常に大事なところではないかなと思います。

#### 【部会長】

どうぞ。

#### 【伊藤委員】

まさにそういう白書ですけれども、もし区民の方に見ていただいてツールにしていきたいとすると、いかにこれを自分事化していくかということだと思います。どこまでこれに入れるかというのはちょっとわからないのですけれども、場合によっては先ほどペルソナとおっしゃっていましたが、顔までは出さなくても、こういう接点があったという具体例を何段階かで入れ込んでいくというのはあり得るかもしれないと思いました。

というのは、先ほど9ページで、データ、千代田区に価値があるのだと言いつつ、スペックがいいからと

いうのが出てしまったよとおっしゃっていたのですけれども、これは当たり前で、スペックを聞いているからだと思うのですよ。アンケートはどうしても集計してしまうと、そういうならされたものしか出てこないで、こういう形になるのは恐らく当然で、例えば職場や学校が近くにあるというのが一番多いのですけれども、そこで起こることというのは、職場が近いから子どもが同僚の人にも「こんにちは」と言えるとか、多分ストーリーとしてはそういうことが起こってきていると思うのですね。だから、ここで聞かれているのは恐らくスペックのほうで、そこから生まれるストーリーというのが一つずつあると思うのです。全部一つずつ挙げていってもあまり意味はないのですけれども、これが何を示しているのかということをもしここで示したいのであれば、そういうヒアリングではないのですけれども、アンケート以外のストーリーが見えてくる方法をとらないと、なかなかスペック以外は出てきにくいのではないかなという気はします。

なので、その中で、エビデンスベースで全部やりますと、一人の意見を聞いてもあまり意味はないのですということであれば、ここでとどめるということもあると思いますし、これの意味するところをもう少し具体的にイメージしてほしいということであれば、ここから生まれる生活の実感とか、ストーリーのほうを例として挙げて載せるというのはいり得るかなと思いました。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

例えば、今、伊藤委員がおっしゃったのが、少し理想的な千代田区との関わり方みたいなものもあるだろうし、我々のほうとしては、データ編の4ページをご覧いただきたいのですけれども、ひとというところの中の2番のほうですかね、基礎データ編の4ページのひとという中の左下に参考ということで、これはちょっとわかりにくい資料ですけれども、青が平成30年の人口構成で、青は平成30年1月1日に、生まれた人が一番左にいます。その次のオレンジ色が平成25年の人口構成でずらしています。平成25年に生まれた人が一個右になっています。一番黄色が平成15年にゼロ歳の人が今この瞬間は15歳になっているという形になっています。そうすると、ご覧いただいたとおり、24歳、25歳ぐらいで一番下の黄色が、バブルの後も引き続き千代田区にいた人たちだとすれば、ここが非常に新しい住民層が増えてきていると。だんだん右に行くに従って、当然ですけれども、まだ15年しかたっていないので、だんだんこの差が狭まってくるのですが、これがあと5年、10年しても今後ここが引き続き差が、要は自分にスペックが必要のときだけ千代田区にいて、終わったら愛着もないから出ていくとかということがないような取組ということの中で、少しデータとしてイメージをしています。だから、これが一つのエビデンスベースになりつつ、多分、それだけではなかなか解決しないので、伊藤委員がおっしゃったようなことが今後取り組めるかどうかというのは、ちょっと研究をしてみたいと思います。

#### 【部会長】

そこに付け加えると、千代田区の場合は、住む方とか働いてみたいという人を、別にこういう人に来てほしいという積極的な働きかけが必要ない状態ではないですか。来る人はみんな、どちらかという背広を着て、それなりの貯金も持っていて、それなりの学校に行つてという子どもたちばかりなのですから、では、その人たちが次の千代田区のまさに担い手とかになるかという、必ずしもそうでないという部分があつて、それは例えば紀尾井町とかあの辺にお育ちになった方がそのまままた住むかという意外にそう

でなかったり、住んでらっしゃるのだけれども地域とは全く縁がないという方も結構多いではないですか。

だから、そういった意味では、この都市マスの改定の話としては、どういう人たちにこれから住んで、愛着をこれからどう持ってもらおうかというのも大事なのですけれども、やはりどういう人たちに住んでもらいたいかという、感覚があるといいのかなという気がします。要するに何か都市のおもしろさみたいなものが、例えば千代田区にはあるという、ここでは表現されてないと思うのですけれども、江戸から伝わるような非常に混沌としたおもしろさみたいなものは実はあるのだけれども、でも、それが表面化してないし、むしろ失われつつあるかもしれない。そうだとしたら、江戸期が一番いいとは言わないのですけれども、そういう頃のいろいろな層が商業している人もあれば勤め人もいて、武士みたいな人もいれば貴族みたいな人もいるわけですが、そういう人たちが混沌としている中でおもしろいとか、要するに新しい文化が生まれそうだなとか、そういう中で、やはり新しいライフスタイルだとか、新しいクリエイティブな生活だとか、そういうものが生み出せる地盤があるかどうかという、あるいは地盤になってくれるかどうかという、その辺りがもう少し強調されると、世界の都市の中で東京はおもしろいと、住んでみたいと言われるような形になるのかなと思いますので、ぜひともお願いしたいということです。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

その辺りもここに実装していく上で、多分先ほど申し上げたとおり、区民概念が多様なので、今住んでいる人たちが、例えばクリエイティブ層をやはり千代田区に引き止めて、渋谷に行かないで千代田区に残ってもらって、それでもって都市の魅力を今後、引き続き国際競争力も含めてというイメージ、まちに対してもそういう良質な賑わい、そういうのが残りながらというまちの方向感を持ったときに、6万人の人たちは、いや、別にそんなクリエイティブの人が住んでなくてもいいよみたいなどころがあるのですけれども、多分総合的にまちを考えたときには、住んでいる人たちにとってもそれがいいことになるのだらうと思うのです。あとは合意形成を図る上で何かストーリー仕立てというのは、多分今後必要になってくるのだらうなと思います。

#### 【部会長】

渋谷のクリエイティブというのと、千代田区で考えるクリエイティブというのは違った求め方を多分しているし、そういう部分をどう強調できるかということなののだらうと思うのですね。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

千代田区のクリエイティブだったら、例えば士業を営んでいるようなイメージになるのだらうなと思うのですけれども、例えばそういう何か少し創造的な人々たちが住まうまちみたいなイメージが作り切れるかというところは多分あるのかなと思います。やはり都市を総合的に考えたときに、そういう視点は大事だよなということが着地してくればいいのかという気がします。

#### 【中村（政）委員】

政策的に、やはり都心でこれだけ地価が高いところで相続するのも大変なので、多分先ほどの表でも65

歳以上になってある程度維持して数が一定して、その前の年齢だと、すごくいっぱいいるのにどんどん減っていくというのは、やはりここで住みにくくなるわけですね。というのは、一つは、やはりお父さんは元気でそのビルにいてもやはり自分は郊外のマンションに住むということはよく見えますよね。なので、そう思うと、クリエイティブ層といった際に、千代田区の魅力はやはり地域との深いつながりが、特にお祭りがあるということが非常にあると思うのですね。その深いつながりの中にあるのがクリエイティブ層ということなので、世代交代していった際に、今の千代田の年齢層の構成ではなくて、では50年後の年齢層の人たちが上位に来たときに、果たしてそれがどういうまちづくりの観点でクリエイティブな視点になるかといったときには、全部がそうならなくても、今、交通の便がいいと来ている数ではなくて、千代田に対しての千代田らしさ、または文化的なことに対して興味があるという数%の人たちが、ある意味、次の千代田のリーダー格になってくるという可能性も大なのです。なので、その部分はこの表のつくりはおもしろいので、何かこれをベースにしながら……

【部会長】

そうですね。

【中村（政）委員】

推移していくようなもののデータがもう少しとれると、この白書の意義が非常に深まってくるなと思いました。

【部会長】

そうですね。ありがとうございます。

では、ほかの先生方、いかがですか。

はい、お願いします。

【中村（英）委員】

表紙をめくった目次の次のページにあるように「白書を通じて考える未来」ということですね。それで、当然区民も重要なターゲットですけれども、一方で昼間にこられる方々、特に民間の事業者の方々、非常に重要なターゲットだと思うので、そういった方々と今後について考える一つのきっかけにしようというのがこの白書だろうと思います。今、構成が非常にご苦勞はされながらも、抑制的というか、いいところ取りというか、結構淡々とまとめておられるところがあって、「考える未来」の部分についてコラムであったり、そういったところで少しきっかけを盛り込もうということ自体は非常によくわかるのですが、でも、ちょっと少な過ぎるかなという感じもいたします。

それで、MIRAI-VIEWのようなミニコラム以外に、章の間にもコラムが幾つかございますよね。3章、4章の間にはターニングポイントという形でコラムも入っていただいているのですけれども、多分これはこれでよろしいのですが、何かもう一つぐらい1ページ使って未来を考えるきっかけになるようなキーワードであったり方向性であったり、別にそれはこう考えていますよというのではなくて、こういうのはどう

考えるのでしょうかとか、ほかの国ではこんな例も出てきていますけれどもとか、今具体的にアイデアはないのですが、もう少し未来を考えるきっかけ、問題提起、先進事例、視点、そういったことを入れるようなページが一つあってもいいかなという感じがいたします。今だと、本当に淡々としたベース、これはこれで価値があるのですけれども、最初もくろんだ白書の使われ方という意味では、インパクトが一個足りないかなという感じを持ちましたのでご検討いただけたらと思います。

【印出井景観・都市計画課長】

そうですね。やはり例えば東京都の「都市づくりのグランドデザイン」の中では自動運転も含めたり、あるいは高度なさらに「Society 5.0」みたいなかなり進んだ情報化もイメージしながら書かれている中で、その辺りは我々も情報として承知はしつつ、区の都市マスの中にどこまで描き切れるか。いわゆる基礎自治体の範疇の中でどこまで踏まえて都市づくりできるかというのは、それは常々小澤副部長からもご指摘をいただいているところなので。ただ、自動運転の話等も含めて、やはり不連続な技術の進展とかを見据えながら、まちづくりの将来像はこんな未来があるのかもしれないよみたいなネタとしては、素材としては検討してまいりたいなと思います。

【中村（政）委員】

技術もちろん一つの要素なのですけれども、例えば都市空間を考えていく中でもよくおっしゃるように人中心の何とかにしますみたいな、そういう価値観というのかな、まちづくりにおける重要視をしていく分野、もちろんエリアが違くと全然違ってくるのですけれども、そういうものも入れていくと、ただ民間の事業者の方はそういったコンセプトの中で自分たちの事業展開、うまく一緒に行けるのか、少し違うのではないとか、いろいろな意見も出てきそうな気もするので、ご検討いただけたらと思います。

【印出井景観・都市計画課長】

わかりました。私のほうで少し、中の中ではそういう可能性もありますよという表現はあるのだけれども、例えばもうちょっとダイナミックに、それこそこれからの神田だけではないですけれども、いわゆる細街路を多く抱えるような既成市街地の機能更新の中で、それこそ街区の中に歩行者専用みたいな道路があったりとか、それこそ街区の中には車が入らないようなイメージがあったりとかという、何かそういう都市像の意味での少し夢があるということですかね。

【中村（政）委員】

そうですね。

【部会長】

ありがとうございます。よろしくお願いします。

橋本委員。

#### 【橋本委員】

私も今の意見と本当に似ていて、同じことの繰り返しになるかもしれないのですが、このデータから何を読み取れるのかということの説明、解説がもう少しあるとデータが生きてくるのかなと。白書のページ数というものに限界があるのだと思います。その場合には、思い切って今載せられているデータのうちのグラフの幾つかは、もう一つのデータ編のほうに回すということで紙面の構成を再構成するというのもありなのかなと。やはりグラフによっては非常に細かく、また小さくて、全体の印象としてわかるのですが、特にこのグラフの中でどこが重要なのかということ、実は白書のちよだのまち編のほうではなかなか読み取れないグラフもありまして、もう少しグラフを細かく、何が重要なのかということの1行、2行でいいので、グラフごとにコメントがあると、読む方にとってより伝わるのではないかと。そのまとめ方についてご苦労されているとは大変感じているのですが、もうちょっともう一工夫あると読み手の方に伝わるのかなということが一つ。

それから、大変細かいことですが、平成も終わりになりますが、このデータを拝見しますと、平成何年のデータと全部書かれておまして、千代田区さんの方針もあると思うのですが、この白書がこれから先10年使われていくとしたら、年号の書き方についても統一性を持たせるべきかとちょっと思いました。

#### 【部会長】

多分西暦に変えるのか、平成時代はそうだったという形で書くのかなと思います。すみません。

はい、村上委員。

#### 【村上委員】

私のほうは、全体的な話というよりは関連する、今回3.5と3.6で環境エネルギーとあと防災関係を分けていただいて、少し防災のボリュームとエネルギーの部分を増やしていただいてよかったかなと思っています。その中で、千代田区が国際都市を標榜するとともに、やはり人口増を狙っている中で、災害に対して強靱な都市というのが非常に今後重要になってくるのかなと思っています、そのときに関連するのが32ページの部分で、ここでは紙面的には物理的な建物倒壊とか水害の被害の部分も多いのですが、やはり対応力ということですので、恐らく企業が非常に集積しているという話と、あと、今、人が増えつつある区民の方と、あと国際都市も含め非常に昼間における滞在者も多いということで、三つに分けて、32ページの右上にある部分ですか、もう少し区民にとってどう災害時に安心・安全ではないのですが、LCPが確保されるのかとか、あと企業は企業でだ思うのですが、滞在者は滞在者ということで、今それが一緒になって、紙面的には建物倒壊とかハザードマップへの対応というのが多いのですが、もう少し右上の対応の部分を誰に対しての部分かという三つに分けて、もう少しこちらのほうの対応力の説明を何か紙面として割いてもいいのかなと思いました。ちょっと細かいことですが。

#### 【部会長】

ありがとうございます。今のところはよろしいですか。

【印出井景観・都市計画課長】

今、まちづくりとの関係性の中で、ただ単にハード的なことだけではなくて、都市の運営というところも踏まえると、そういった整理、それから、それこそやはり災害が起こる時間帯によっても全く様相が異なるということもありますので、少し受け止めさせていただいて検討させていただきたいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

小澤委員、いかがでございますでしょうか。

【小澤副部会長】

地区別のものが書かれているのは38ページから始まりますね。それぞれ例えば39ページだとか41ページへとつながりますけれども、MIRAI-VIEWというところがございますよね。これ例えば39ページですと有識者コメントと書いてあるのですけれども、これ各メンバーからいただくという、それをまとめるというイメージなのですか。

【印出井景観・都市計画課長】

そういうイメージと、あと例えば少し上位計画、例えば東京都とか、そういう部分の中の少し上位階層の考え方とかを整理する部分と、基本はおっしゃるとおり、このメンバーなり都計審の学識の先生に書いていただくということでは考えています。

【小澤副部会長】

このMIRAI-VIEWをどういう内容で書くかというのは非常に重要だと思うのですが、これのエリアの中に、例えば秋葉原とかお茶の水はどこに入るのですかね。

【印出井景観・都市計画課長】

今ここでお示しをしているのは、取組の中でも少し優先的に、今ちょっとまちの動きがあるようなところだけを入れているのですが、秋葉原、お茶の水というと全域にわたってではないのですけれども、ある程度基盤も少し再開発も含めてまちの様相としては変わっている部分があるので、そうすると、今優先的な課題があるのは、中小老朽したビルが集積して街区としても機能更新の時期を迎えている神田、麴町だったら高経年のマンションが集積している麴町、それから両者の間にあってみたいな……

【小澤副部会長】

エリアごとにね。

【印出井景観・都市計画課長】

全域ではないです。

## 【小澤副部長】

エリアごとにまちづくりの課題認識だとか、それから将来像について、区として都市計画部局が中心でまとめるとしても、関係施策をやる各部局も含めて、例えば秋葉原エリアについてはこういう認識のもとにこういう方向のまちづくりをしていくよというのがちゃんと書かれていて、関係する部局もそれについてきちんと認識しているという状態というのは、やはり都市白書には求められるのではないかなと思うのですよね。だから、やはり全部のエリアをカバーして、現況とそれなりの認識が書かれた上でMIRAI-VIEWについて、有識者の人だけではなくて、もちろん有識者の人の意見ももらうけれども、それをきちっと消化した上で事務局のほうでまとめて、それで関係部局のほうにも一応見てもらって、区としてのできるだけまとまった考え方がここに提示されるといいかなと思うのです。それがあっていいかなと思うのが一つ。それから、ここは非常に重要だと思うのです、今後ね。

それからもう一つは、エリアごとのものにも関係してくるのですけれども、これ何ページですかね、3枚目ぐらいにこういう図面がありますよね。これまず参考にしてみると、結局そういうエリアごとについて考える際にも非常に密接関連してくるのですが、秋葉原にしてもお茶の水にしても飯田橋にしても区界ですよ。例えば、飯田橋はすぐ神楽坂を抱えていて、新宿区のほうは、神楽坂についてはかawaii性を生かしたユニークなまちづくりをしていくということで考えていると思うし、一般的には神楽坂はそういうふうに皆さん認識されていて、まち歩きも非常に盛んになっているでしょう。そうすると、ここの飯田橋でおりる人は多いと思います。だから神楽坂とこちらの富士見のほうは一体的に考えないといけないので、この辺は千代田区としては新宿区が考えている内容のことも一応理解した上で、区の中の話だけではなくて、両方一体的に考えないと有機的なまちづくりにつながらないのではないかなと思います。

お茶の水も一緒だと思うのですよね。お茶の水の文京区側は医療施設があって、緊急時も非常に拠点病院になったりしますよね。こっち側の区内ももちろん病院があるしということで、先ほどのお話がありましたけれども、まだお茶の水については、だから文京区側も含めて駅周辺での、例えば500メートルとか700メートルという一定のエリアにおける主要な病院だとか大学だとかを含めたまちづくりの構想というのを、まだまとまってないのではないかなと思うのですけれども。例えば明治大学は明治大学で何か考えているものがあるかもしれない、日大は日大で考えているものがあるかもしれないけれども、それを含めて地域としては、千代田区、文京区、そして東京都としてこうしたいのだというのがないといけないのではないかなと思うのですけれども。

そういう意味で、エリアごとにちゃんと考えるということで、その際に重要なのが、区界の部分を千代田区だけ考えても意味ないので、これは千代田区のほうが率先して相手側の区のほうのところも情報をもらって、場合によっては相手側のほうにもものを投げかけるぐらいのつもりでやったほうがいいのではないかなと。これ全部に関連してくるので、非常に重要なのです。

最後は、大体終わってしまうとあまり評価はされてないのかもしれないのですけれども、例えば秋葉原について言うと、常磐新線が来るというので一生懸命になって駅周辺の神田市場の跡の区画整理をやって、今みたいな形になりましたよね。UDXとか様々ビルが建ちましたよね。そのときには筑波の国立の先端的な研究機関がここにどんと来ると。要するに鉄道でアクセスできるということで、知の融合みたいな拠点にす



るのだと。知の融合にし、しかも、それを形あるものにするという意味で行けば、ビジネスとの融合もしていくのだということで、あそこも、UDXがその拠点広場だよという意気込みだったと思うのですが、今どうなっているのかねと。中身については誰がどういうことをやっていて、目指したものが果たしてちゃんと機能しているのかどうかというのをちゃんと評価しないといけないのではないかなというので、秋葉原のあれは今どうなっているのだという評価をやはりこういう都市白書でして、そういうことだったけれどもこういう問題があるねということがちゃんとつながっていかないと、何か終わったやつは知らないよというだけだと具合悪いなというのはちょっと。ぜひそれ一回、レビューしてほしいのですが、どうなっているのだろうかというのを前から思っていたのですが、秋葉原は今どうなっているのかなと思って。

【中村（政）委員】

おっしゃるとおりですね。

つまり建てる時には規制緩和なり何なりを言い出して、企画書も物すごくよくつくって、実際リーシングしてもその人たちしか入らなくて、結局商業施設になってしまう。もう秋葉原のほうは本当にそうですね。

あと、区界の話も全くそうで、3331は台東区と文京区と千代田区の区界なので、うちの利用客は台東区と文京区の方が多いのですよ。でもそれはそれで地域としてはバランスがとれているのですよね。つまり半径何メートル以内の中に住んでいる、働いている人たちが、そこに商業施設もあれば文化施設もある、病院もあるみたいな、そのバランスの中で住みやすさを感じているので、区界から向こうが白紙の状態ではないのですよね。

【小澤副部長】

先生は藝大でしたか。

【中村（政）委員】

藝大です。

【小澤副部長】

名前を失念したのですが、東大の先生で教養の先生だったかな、と藝大の先生が、あそこの上野の文化施設から始まって、湯島から始まって……

【中村（政）委員】

あ、文化資源会議ですね。

【小澤副部長】

この軸を歴史文化の軸として一つの軸のまちづくりをすべきだということで、あちこちに行って提言している先生方がいらっしゃるのですが、例えばそういうことも必要だと思うのですが、そうすると、台東

区だ、文京区だ、千代田区と一緒に歴史文化の軸のまちづくりをしていこうねというアライアンスを組んで、それぞれがまちづくりの白書の中なりマスタープランにちゃんと位置づけているというのは、やはり必要だなという気もするので、そういうことも含めて考えていただくといいかなと思います。

だけれど、それにしても、まず過去にやったことについてきちっと評価をして、それをちゃんと繰り返さないようにするのにどうしたらいいのかということ盛り込んだMIRAI-VIEWが出ないと……

【大森まちづくり担当部長】

たしか、東京都が土地を売るときにITセンターという縛りをかけて買ったのですよね。当時やはりクロスフィールドマネジメントという組織ができてやっていきますと言ったのですけれども、そうですね、今は単なるオフィスビルになって。

【小澤副部長】

その辺はやはりちゃんと当該自治体として責任を持って地域政策をやっていかなければいけないので。

【大森まちづくり担当部長】

東京都のやったことで。

それを評価してしまっているのかなと。

【小澤副部長】

多分経済産業省だとか、ああいうところも入ってそういうことをやったと思うのですけれども、大体国のほうはそのときだけで変わるのですばらばらと。残されたのは地域が全部背負うことになるので。だから、今度は地域側から反乱を起こさないといけないのです、お前たちだめだということをやらないといけない。

そういう意味では、エリアごとのものをフィロソフィーを持ってきちんとしたものをつくる。先生方のいろいろな知恵をいただいて、ここに書いてあるMIRAI-VIEWというコラムのところ、こんな小さいのではなくて、やはりもっと大きなサイズできっちり書くということが重要で、その際に今言ったようなことを織り込んで書くということができるといいなと。先生方にも協力していただけるといいかもしれません。

【部会長】

同様に市ヶ谷と、あと、今開発が進む四ツ谷についても、新宿区側にできる開発ですけれども、多分やはり番町や何かの一番の出発点としての四ツ谷とか、見附橋もそうですけれども、そこら辺が変わっていくと、市ヶ谷はまさに大学のまちとしてと濠のこっち側の部分と両方あるかと思いますが、ぜひともお願いします。

時間が少ないので、分野のところだけちょっとコメントさせていただいて、次のほうに行きたいと思うのですけれども、3.2の豊かなみどりと水辺のところ24ページなのですけれども、先ほど市民緑地の話もあって、都市公園法も改正されて、公園を活用したコミュニティ再生みたいな話が公園のリニューアルに際して求められていますし、それから、今まで公園というのが千代田区だとあまり問題にならないのかもしれ

ないのですけれども、老朽化した公園みたいな部分というのは、やはりどちらかというとな負の遺産になっていて、そういうものがほかの区だと、マンション開発に伴ってデベロッパーがお金を入れて再生をしたりということもしているので、基本的には区の緑というのは、まだ資源にはなっているけれども資産になってないと思っているので、それをコミュニティの拠点であったり、あるいはちょっと美しいという部分も含めた何か資産価値に変えていくという話が必要かなと思います。あとは、公開空地とかワテラスとか、既に変更してそこから生み出されたものもあるので、そういう民間緑地の生み出した新しい文化とか、そういう部分も港区だとミッドタウンヨガとかと言いますけれども、丸の内の場合だとさまざまなものが個別に大手町の森とか、いろいろあるので、何かそこら辺が入ってくるというのか。それも東京駅のこっち側で切れているのかもしれませんが、なおかつ市民緑地と言わないと、多分さっきの地域の問題ではないですけれども、区民目線から言うと、各地域の方々がどうなっているか。例えば豊島区さんなんかは、今、公園で池袋を変えようという感じで変えていますよね。だから、そういう取組、あと防災拠点としてもそうですけれども、そういうことがもう少し踏み込まないと、区民目線から見ると、ちょっと不十分だねという感じになるかと思うので、ぜひともその辺をお願いします。

時間が押してきましたので、すみません。次の資料の説明をいただきたいと思うのですが、白書案についてはどうでしょうか、今の話では、皆さん少し使い方や何かも含めて変更という形になっているのですが、どうでしょうか。一応都計審との関係がありますので。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

冒頭にデータがまだそろってないという話と、今日いただいたさまざまなテーマですね。それというのは、もしかしたら都市マスの中には落とし込めないかもしれないけれども、白書だったら落とし込めるかもしれない。例えば区界の話とかですね。そういうレベル感のものもあるのかなと思っていますので、それも含めて、少し都計審の岸井会長とも相談しながら、白書のアウトプットを12月の都計審と思っていたのですが、もうちょっとずらして、今日いただいたテーマも踏まえつつ、データの精度も上げながら、中村英夫委員とか小澤副部長とか中村政人委員からいただいた、もう少し将来、夢を持った、白書だから書ける、都市マスにはさすがに、それ言ってしまうと身もふたもないのですけれども、区界の話など。

#### 【部会長】

そうですね。都市マスでは触れられないことでも白書なら。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

区界の話なんかは、これを言い切ると身もふたもないのですけれども、やはり市区町村のマスタープランの中で、どこまで隣の区のことまで言えるかというとおのずと限界があるけれども、白書の中では千代田区としては問題提起としてこう考えていますと、外神田の人は池之端まで生活圈なのですかという意識感はあると思うので、その辺については白書だからできるかもしれないなど。四ツ谷もそうですし、市ヶ谷もそうですし、まさに結節点、飯田橋、市ヶ谷、四ツ谷、お茶の水、秋葉原というところは、ほかの区との関係性なしには語れないというのは承知していますので、それについてはハード、ソフトもそういう状況なので、

出し方というのはもう一段考える必要があるのかなと思っています。それらも含めて、少しスケジュール感として白書のアウトプットをちょっと後ろにずらしながら、でも全体としては、後で、今お示しする資料3というのが、ある種これからの都市マスの少し論点を整理するものになるので、全体としては作業は並行に進みたいにしたいなと思っていますので、そこについてご了解をいただければと思います。

【部会長】

私も多分このまま出しても都計審の委員の先生からも同じことを言われてしまって、我々ちゃんと検討しているのかと言われてしまっても困りますので、その辺は11日の都計審に出して……

【印出井景観・都市計画課長】

あと、先ほどの公園の話も確かにおっしゃるとおりで、先に民間の市民緑地を考えるよりも、自らの児童遊園とか考えろという話が……

【部会長】

そうなのです。考えていただかないと。

【印出井景観・都市計画課長】

確かにあると思うのですけれども。

【部会長】

区民目線で。

【印出井景観・都市計画課長】

その辺も確かにおっしゃるとおりだなと思いましたので。

【部会長】

よろしくお願いします。

【印出井景観・都市計画課長】

そこも含めて、例えば方向感として整理するとすると、庁内についてもさまざま調整する、こういう方向感はあるのですと、うまく使われていない公園とか児童遊園等をまちづくり等を一体として再生をしていくと。結果緑も増えるし空間もよくなるという方向感もあるのですと言いながら、やはり公園を管理している部隊とか道路を管理している部隊との調整というのをなしに進められないので、その辺についても少し時間を要するかなと思っています。

【部会長】

よろしく申し上げます。

では、時間が不足してきましたが、資料3については説明をしていただいで。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

簡単にご説明します。

皆さんからいただいた意見を要約しながら、キーワード的には先進性、先端性とか強靱性とか持続可能性とかというところに、ある種大枠で収斂されるさまざまな意見をいただいたのかなということをお示しをしています。

これまでに都計審とこの部会でいただいた中で、今後の論点としては、大ぐくりで6項目、今の都市マスは人口減少が究極のときにどうやって増やすかだったのですけれども、そうではなくなりました。今後の人口の数の動向とか人口構造にどう対応していくかという話です。

それからⅡ番目が、今日もご議論いただきましたけれども、要は我が国の都市の中でも非常に多様な人が活動し交流する千代田区において、やはり今後の都市像はどうなるのかいうところですね。地域らしさを残すにはどうしていったらいいとか、あるいは先ほど申し上げましたとおり、クリエイティブな形での交流を促すにはどうしたらいいとか、空間のよさ、水とか緑とか、その辺のところかなと思います。

裏面については、今のⅡ番目とかぶるのですけれども、千代田区が千代田区である最大の特色としての首都の中心におけるビジョンということをございます。だから、Ⅱ番の中でも多分強靱性とか言っているのですけれども、まさに先ほど村上先生のご指摘にあったように、普通のまちの強靱性とはちょっと違うのだらうと、対象者も含めて。それから復旧復興についても、普通の都市であれば、ある程度の時間的な猶予を持って都市機能を回復すればいいのだらうけれども、極端に言うと、もう即回復するとか、そういうレベル感が求められているのだらうという中での都市のビジョンの話ですとか、SDGsの話です。

それから、Ⅳ番目が、やはりそうは言っても、今日も中村政人委員からもありましたけれども、まちづくりの担い手をどう連携し、育てていくかということになってきます。

Ⅴ番目が、さまざまな課題があるのですけれども、優先的にどこに取り組むかとか、どんな課題に取り組むかというのは順番付けが必要なのではないのでしょうかという話と。

あとⅤ番目の2番が、福井先生からあったのですけれども、やはりこれまで量的なインセンティブに頼って都市機能を更新してきたというところがあるので、では、量的インセンティブでない手法があるのかないのか。だから、先ほど議論があったように、公共空間を活用する中でのインセンティブの与え方というのはもしかしたらあるかもしれないし、その辺が議論と。

それから、最後に、このマスタープランの改定のプロセスについて、都計審のほうでも議論がありましたし、伊藤委員のほうからも、この白書をつくったとしたら、これを今後どうやって使っていくのかということもあったので、大方、今の段階で、今これはある種本来はさまざまな論点があると思うのですけれども、どんな白書にしますかという中で出てきた議論としては付録の議論なののですけれども、今の段階で出てきているものでこんなのがありますけれども、どうでしょうかというメモになっています。

以上でございます。

### 【部会長】

ありがとうございました。残り時間が10分ぐらいですので、あまり細かい部分のご意見賜れないのですが、今の6点といたしますか、白書のご説明を受けた上で、主な論点がこれでいいのかという部分も含めてご意見があれば、特に論点項目を、例えばこういう部分も必要ではないかとかという部分があれば、ぜひともご意見賜りたいのですけれども。

### 【中村（政）委員】

一つ欠けているなと思ったのは、国際都市というところの観点からですが、実際に海外の人たちが住んでいる人もいるし、特に学生は非常に増えているのですね、今。この数年で、やはり国の政策もあり留学生が物すごく増えています。彼らはすごく優秀なのです。そういう人たちがそのまま野放しにされているのです。学校の中ではちゃんと見えています。彼らがまちに出て、千代田でどういうアクションを起こしていくのか。誰と友達になって何を食べていくのかというのは、国際都市を考える際にも、かなり国が奨学金等を出して招聘してきて、奨学金を出して国費で連れてきている人たちもいっぱいいるのです。それだとやはり国際都市の中での千代田というプランの中に、彼らも含めたこの千代田にいる海外の人たちのどういう特性を持っている人たちがいるかというところは入れたほうがいいのではないのでしょうか。

あともう一つ思ったのは、先ほどの新しい住民が増加していると。特にマンションに住んできている人たちです。そういう人たちは、本当によく感じるのですが、あまりさっき言った利便性を求めてきているので、特に町会とかまちの活動にはすぐは参加しないのです。逆にまち側の人たちからもどうやって声かけていいのかという悩みを相談されるのですが、その間には、やはりある種の交流拠点であったりプログラムが必要なのです。積極的なプログラムを、特にうちの場合はアーツ千代田3331という文化施設があるので、そこのプログラムに両者が参加すると自然に融和するのです。子どもたちが来るとお母さんたちが来て、お母さんたちが自然に関係する。というように、やはりある種戦略的に文化施設なり交流施設をうまく活用するプログラムそのものが必要なのです。

それがよく言われるのですけれども、麴町の人から言われるのは、3331はいいよねと、五軒町の人たちはいいよね3331があるから、でも番町・麴町はないのだよねと言われるわけですよ。だからそういうことを考えると、さっきの区界の話もあると思うのですが、ある種のゾーニングの中にどういう施設が点在しているかということの総合的なバランスが、そこでの区民の満足度を高めるので、それが総合的なバランスが区の向こう側にあった施設だとしても、住む住民は総合的にそこがいいからそこを選ぶわけではないですか。という視点が、新住民の動向に対しての課題解決にも先ほどのことが少しつながるのかなとは思いました。

ほかにもあるのですけれども、とりあえずその2点。

### 【印出井景観・都市計画課長】

先ほどのところは先ほど申し上げたとおり、これまで出たのをまとめましたという話なので、今いただいたものも追加しますけれども、何ですかね、これまで出ているのに何も視点がないよというのがもしあったらという形で、だから、次回以降、もうちょっとそれを深めて議論していこうかなと思います。

### 【部会長】

今の議論に関係すると、やはり新しい住民という考え方が、やはりさっきのクリエイティブをどう捉えるかというところと関係していて、今、中村先生のおっしゃっているような、新しい海外の留学生でもあり、これからを牽引する人材というか、そういう人材をどう野放しとおっしゃっていましたがけれども、生かしていくかというので、例えば六本木ヒルズの中にはハーバード・クラブとかあったりもしますし、ニューヨークだとイエール・クラブとかあったりもするのですけれども、それは単一の大学のクラブでしかないのですけれども、そういうのがもう少しまじって、せつかく割といろいろな第一線の大学の人たちが関係している部分が千代田区にはあるわけですから、そういうところで留学生がお互いに人脈を持って、東京というところはそういうところで人脈が築けるところだという、ニューヨークよりもっとコンパクトでそういうことができるというのが、今までだとどうしても外資系を中心とした港区という感じで、六本木を中心にあったのですけれども、それをもう少し文化度が高い部分、もうちょっと違うカルチャーという部分としては何か千代田区が担える部分というのはあるのではないかなと思いますね。そこから本当に第一線の方が出ていくというのは千代田区民の誇りでもあるし、そんなところにつながれるといいのかなと。

あと何か新しい町会みたいなものも、既存の町会というのはうまくいかないというのは、だんだん更新してきているので、団塊の世代以降の町会のあり方みたいなのは、多分何か違ってくるだろうと思っているので、そんなものも千代田区みたいところで、新しいそういうコミュニティのあり方というか、皆さんが入りやすく、ミックスしやすい、まさに融合しやすい町会のあり方みたいなのも考えるといいのかなという感じがします。

すみません。あと5分ぐらいですけれども、どうでしょう、皆さんの中でこれはというところの論点がありましたら。

### 【大森まちづくり担当部長】

留学生の拠点なりプログラムなりをするときの運営側というのは、やはりそういった各大学がやったほうがいいのですかね。それとも何か別の組織がやったほうがいいのでしょうか。

### 【中村（政）委員】

大学がやるとなるとどうしても国立と私立はちょっと壁があったりするのですけれども、千代田区さんのほうが例えば言い出しになって、一つの学環をつくろうと、学校の環ですね。学環をつくろうというもしプログラムを言っていただければ、千代田区にある学校の人たちはまとまりやすいです、単純に。藝大がまとまろうと言っても、いや、藝大さんは、と敷居が高く感じるので、何かそういう意味だと、研究室を持っている大学の教員の人たちがまず有識者として集まって、それを集めていただいて、そこで国際的なプログラムをつくりたいと。または学生も含めて、日本人の学生と海外からの学生も含めて交流するようなものをつくりたい。先生たちを選んでまず集めて話をすれば、結構すぐできると思いますよ。

### 【大森まちづくり担当部長】

すごく魅力的な話だなとは思いますが、一方で、やはり例えばハードなものをつくるとしたときに、区有地を使ってつくるとなったときに、やはり俗に区民共通の財産と呼ばれているものを、福祉だとか子育てに使わずに、学生さんは基本的には区民ではないものですから、留学生だとか。そこに区がそういうことをやるときの理屈づくりが非常に難しいと思うのです。

【中村（政）委員】

プログラムの内容で考えれば、別に福祉に対しての勉強をしている人たちもいっぱいいるわけで、つまり彼らのアイデアなり行動を区民のためにアクションを起こすと当然学びになるわけですから、そう考えたほうがいいのではないですか。

【印出井景観・都市計画課長】

制度運用としては、例えば諸制度とかの育成用途の中にそういったものをイメージしつつ、収益性、事業性が成り立つのかどうかということをバランスを考えながら、実現可能性を探っていくということですかね。

【大森まちづくり担当部長】

社会がそういうのを評価できるとなればいいですね。

【部会長】

そうですね。例えば夜とかの時間にそういう人たちが集まれる場所を作って、その中から、多分区民向けにそういうものを披露するような機会を持っていけばいいと思うのです。港区とか、あるいはワシントンだと、各大使館さんとやる機会とかやってらっしゃるところがあると思うのですけれども、それを大使館ではなくて、例えば千代田区にあるそういう大学とかの形でやるというのが一つあるかなと思います。

【中村（政）委員】

優秀な学生には企業がつきますから、日本の東京のトップ企業で就職したいという人が多いのです。というと、その人が学生のアイデアがいいと、それこそスタートアップ事業系だと出資者が待っているのです。出資者がどんともう投資するようなことが起こっています。それを優秀な学生はみんな狙いに行っています。

【部会長】

そういうところ、まさにイノベーションで千代田区がそういうシステムをつくってやるというのは、すごく意義があると思うのです。

【中村（政）委員】

おもしろいと思いますけれども。

【部会長】



時間になってしまいましたので、ほかにまたご意見がありましたら、事務局のほうまでお届けいただければと思います。

今回は白書についてかなり議論いただきましたけれども、大方の委員の先生方の方向性というのは大体集約しているかと思しますので、事務局のほうでそれをいただいたものについて修正をして、特に使い方とか、区民に向けてではどう見せるのかというところを、特に三友先生や橋本先生からいただいたような、見やすさとか、そこから何を読み取るのかとかというところと、あと白書に入る部分とデータ編に入る部分の仕訳みたいな部分ですね、そのあたり再度吟味をしていただくということでお願いいたします。

それでは、本日はいろいろなアプローチをありがとうございました。

そうしましたら、今後のスケジュールだけ事務局のほうからお願いします。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

スケジュールですが、先ほど申し上げたとおり、今日いただいたご意見やデータの集積状況もあるものですから、12月ぐらいに白書をアウトプットしようかなと思っていたのですけれども、その辺のスケジュールは少し調整をさせていただきます。

#### 【部会長】

そうですね。再調整していただいて。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

池邊部会長と都計審の会長とか相談しながら、調整をさせていただきます。

それから、今日もさまざま、それぞれの関心に応じていろいろなご議論をいただいたところではあるのですけれども、なかなかこの人数の中でうまく皆さんが意見が言えるかという、厳しいのかなと思っております。次回から一、二回、少しワーキング、分けてもうちょっと意見をいただける、あるいは違う視点から意見を交換できるような運営ができないかなということをお願いをしたいと思っております。一つのまとめ方のイメージとしては、市街地の機能更新とか環境とかエネルギーとか防災とかという、どちらかというとか社会資本系のほうの議論が一つと、あとそういった文化資本、社会関係資本とか都市の中の自然資本とかというイメージのご議論という感じかなと思っております。その辺り、少し先立って池邊部会長ともお話をさせていただいたのですけれども、事務局の提案としましては、環境、防災等の、あるいは市街地の機能更新のアプローチについては、小澤副部会長と中村英夫委員と橋本委員、村上委員、村木委員がこれまでの研究成果とか、関連性とかを見るとお願いができないかなというのが一つございます。それから、社会関係資本とか文化自然資本とか景観とかというアプローチについては、池邊部会長と伊藤委員、中村政人委員、福井委員、三友委員にお願いをできないかなと思っております。概ね2月中ぐらいを想定して日程調整をさせていただいて、5人・5人で2時間半ぐらいの中で、もうちょっと密なご意見をいただけるような運営をしていきたいと思っております。その場合二つに分かれますので、例えば進行については事務局がやりながらみたい、その辺の工夫については、また部会長と相談して進めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

※全委員了承

【印出井景観・都市計画課長】

では、後ほど日程調整も含めてさせていただきます。  
事務局からは以上でございます。

【部会長】

2月は各先生方とてもお忙しいと思いますので、早目の日程調整を。ぜひともワーキングですので、全員の方にご参加いただけるようお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして本日の検討会を終了させていただきます。ありがとうございました。

《発言記録作成：環境まちづくり部景観・都市計画課》

## 議事概要

会議名称	第3回 千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会
日時	平成30年11月21日(水) 10:00~12:00
場所	千代田区会館10階 研修室
会議次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 開会</li><li>2. 議題<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 都計審・部会における主な論点・意見概要一覧について</li><li>(2) (仮称)千代田都市づくり白書案について</li><li>(3) 都市計画マスタープランの改定に向けて優先的に検討する事項について</li></ol></li><li>3. その他</li><li>4. 閉会</li></ol>

### <議事概要>

#### ■ (仮称)千代田都市づくり白書案について

##### ・〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕共通

- ちよだのまち編に記載するグラフを重要なものに絞って、基礎データ編に移行するとよい(橋本委員)

- 計画検討するうえで仮設の基礎となるデータの精査・整理がもう一段必要（村木委員）
- ちよだのまち編から基礎データ編のデータを参照できる形にする（伊藤委員）
- HPリンク等、出典をリスト化して、だれもが元データにアクセスする工夫（伊藤委員）
- 元号／西暦を統一した方がよい（橋本委員）
- 区民等と議論を深めるためのツールにしていくのであれば、いかに自分ごととできるかが重要（伊藤委員）

#### ・〔I〕ちよだのまち編

- グラフが何を示しているか、コメントを挿入するとよい（橋本委員）
- 区民だけでなく事業者等を白書の読み手のターゲットと想定し、グラフ等見なれていない人に感じ取れる工夫（中村(英)委員）
- 現状を整理するだけでなく、様々な階層の時間軸が同時に進んでいるという流れが読み取れるようなまとめができるとうい（そこをはっきり打ち出さないと、戦略がぼやけてしまう）（中村(政)委員）
- 「癒やされる（観光）→経験する（参加・つくる）→自分のものにしたいと思う（住む）」というステップをまちづくりに活かすことが大切（ペルソナを持ったストーリーを入れ込む等）（中村(政)委員）
- 生活実感の例を挙げて掲載することも考えられる（伊藤委員）

- 今後、どのような人々に住んでもらいたいかを考えたうえで、千代田区の都市の面白さがもっと表現できるのではないか（江戸のいろいろな層、新しい文化が生まれそうな雰囲気、クリエイティブな活動が生まれる基盤、東京が面白い、住んでみたいと思える等）（池邊部会長）
- 考える未来をコラムで盛り込むことは分かるが、もう少し大きくしてもよいのではないか（未来を考えるきっかけのキーワード、問いかけ、他国の事例、問題提起、先進事例等）（中村(英)委員）
- 章間のコラムにもインパクトがあるとよい（都市像としての夢や未来を考えるきっかけとなるキーワード、方向性、問題提起、先進事例を入れ込む等）（中村(英)委員）

**（分析のポイント・データ等）**

**「3.2. 豊かなみどりと水辺に彩られた都心」について**

「資源から資産へ」という考えのもと、老朽化した公園や緑地の再生・活用、コミュニティの拠点や新しい文化の創出、防災拠点としての可能性等に踏み込んだうえで、市民緑地認定制度に言及すべき（池邊部会長）

**「3.6. 大規模災害にそなえた都心の対応力」について**

災害対応力について、3つ（区民、企業、滞在者）の観点からLCPがどう確保されるか記載できるとよい（村上委員）

**「4. 「ちよだ」の骨格軸とエリア」について**

・全域をカバーする必要がある（小澤副部会長）

・過去の計画や事業等が現状どうなっているか、区としてまとまった評価・考え方を示すことが大切（特に秋葉原）（小澤副部会長）

・区境をまたがったまちの捉え方をすべき（市ヶ谷、四ツ谷、飯田橋、御茶ノ水など）（小澤副部会長・中村(政)委員）

・MIRAI-Viewはもっと大きくしたほうがよい（小澤副部会長）

・有識者からのコメントを消化したうえで、各エリアに対する区としての考え方を打ち出すべき（小澤副部会長）

**・〔Ⅱ〕基礎データ編**

- ちよだのまち編との対応関係、記載順の整理（伊藤委員）
- 一般の方が読むことも考え、特徴的な傾向等、コメントを追加（伊藤委員・三友委員・橋本委員）

**(分析のポイント・データ等)**

**「1.1. 居住」について**

- ・人口動態一年齢別人口の比較グラフについて、推移が見えるようにできると非常によい（中村(政)委員）
- ・国際都市として、次の千代田を担う可能性のある数%のクリエイティブな人材の動向を把握（例：文化・芸術を学ぶ外国人留学生等）（中村(政)委員）

**■ 都市計画マスタープランの改定に向けて優先的に検討する事項**

- 留学生、マンション住民をはじめとする新たな住民が増加している中、今後の千代田区を牽引する人材をどう活かしていくかを考えるべき（町会とは異なる新たなコミュニティ構築のあり方検討等）（池邊部会長）
- 新住民が交流できる拠点やプログラムがあるとよい（中村(政)委員）
- 区民の満足度に大きく関わる施設のバランスをゾーンごとに評価することも必要（中村(政)委員）

以上